

伴奏講座

第9回、参加者の感想その3

1泊2日

日にち：2月11日(土祝)～12日(日) 会場：川崎市民プラザ

＜講師の感想＞…講座終了後参加者から一言ずつ述べていただいた感想を2回に亘り紹介してきました。最終回の今回は講師からの一言です。

お疲れ様でした。去年は、1日目が午後からだった中でも、とにかく和音の解らない人に初歩から解ってもらうことを重点的に考えて、「ド」と「レ」と「ミ」と「ファ」とかあって、「ド」と「レ」は何度かって数えるところから始めました。そう言う意味では丁寧に時間をかけたのでその時間が午後一杯掛かっていました。

それで、夕食後は交流会だから、翌日になってから「めだかの学校」と「世界は二人のために」それに「今日の日はさようなら」の3曲に分かれて『音が伸びているこのフレーズの所にこういう“合いの手”を入れて次につなげる』そう言う講義をしながら皆さんに書いてもらったり、あるいは「世界は二人のために」では、普通は「ズチャーチャ、ズチャ、ズチャ」みたいな伴奏するけど、タンゴの「ジャ、ジャ、ジャ」ってやると雰囲気が変わってくるって言うようなことをやりました。

そんな講義でやったことの中からどれを取り入れて自分達の伴奏とするのが決めていただいたので、2日目の午前中が大忙しでしたね。楽しかったんだけど、練習する時間が足りなかったんですね。

今回は、講義の時間を少し短めにしました。1日目も午前中から始めたということもあったので1日目の午後の時間帯から

3曲を提示して、『歌う人が歌いたくなるような前奏をして、気持ちよく歌えるようなテンポとリズムを与えて、息もちゃんと吸わせてあげる』そう言うことがとても肝心なことなので、気持ちよく歌えるように伴奏するためにはどういうことが必要か、勿論、準備することも必要なんだけど、限られた条件の中で何から優先的にやっていかなければいけないのかっていうことを解ってもらえるようにレッスンの中で実践してきたつもりでした。

でも、皆さんはグループごとに集まって皆で分担してやる楽しさみたいなことでやっていたと思うんです。それはそれでとても良い事なんですけども、家に帰ったらもう1回譜面を持ち出して“こういう前奏をして、此处でこういう風に歌わせて”っていうことを一人でもやれるんだって応用していただければなと思います。

また来年もやるとすれば、今回と同じような形でやりたいと思っていますけど、皆さんの中で『いや、もっと楽典について知りたい』あるいは、さっき出ましたけども『ある調でやって高くて歌えない人がいるからさっと下げる』移調する練習などの希望は事務局に出していただいて来年に活かして行きたいなと思います。



もう一つは、池田教室のところで「ドッペルドミナント」の話が出てきましたけども、僕のコースでも、アコーディオンって非常に便利に出来ていて、左手のベースを考

えると和音のことがすごく解りやすく出ています。

例えば、「C」をやって「Gm」に行きたいというときに、いきなり「Gm」に行っても良いんだけど、「Gm」に行きたいんだからその前に「D」に1回遠回りして「D7」とか「Dm」だとかを通ってから「Gm」に行く行き方をすると、とっても洒落た動きになるってことで良く使われます。これが「ドッペルドミナント」(属和音のもう一つ上の属和音)と共通しているんです。「C」から「ドミナントの“G”」に行くときに「“C”のドッペルドミナント“D”」に1回行ってから「G」に戻ってくる。それは、考えなくてもアコーディオンだったら「G」に行くんだったら「“G”のボタンの上の“D7”」を弾いて戻ってくるっていうふうにすればその「ドッペルドミナント」を使った事になる訳です。勿論中には、「E⇒「F」⇒「A」の場合の用に「F」にポンと下がらなきゃいけない辛い所もあるけれど、簡単なので利用していただけたらいいかなと思います。



また、現代は昔みたいに単純明快って言うよりは複雑になっているものですから、「Am7」ですとか「Dm7」ですとか7(セブンス)の和音を使った音があふれていて、楽譜にもそういうのが沢山書いてあるんですね。そうするとアコーディオンのコードボタンには「m(マイナー)」はあるけど「m7(マイナーセブンス)」のコードはないので、その場合どうしたらいいのか、そういうことにも挑戦して行きたいなと思いますね。そうすると初級じゃないですけどね、勉強してそれを活かしていくことが出来るとすごく楽しい伴奏が広がるので、もっと先のことかも知れないけども和音の勉強にも進んで行けたらなと思っています。

でも、そうすると『解りません』という人が出てくるので、其処をどういう風に進めて行ったら良いのかっていうのが悩みの種でもあるんです。でも、今回で3回目ですけど、そんなこともやりたいって言う人が増えてきたんじゃないかなという手ごたえも感じています。(青山義久講師)

ご苦労様でした池田です。9回目の参加になりました。9回やって、僕にとってもすごく勉強になります。自分が言いたいことが何処まで伝わるか、何処まで解ってもらえるのかって、自分の中で納得できなくて進めちゃうと誰も解ってくれないということの関係の問題だとか、それは、教える中で、皆との関係の中で勉強させてもらっています。

また、一人一人の持っている音っていうのが、これがまた面白くて、一人一人が誰も真似できない素敵な音を持っている。そういうのを対面で感じ取れる。それが僕にとっては勉強になったり、生き生きした感じに出会うと僕も元気になる。

今日、ある人のコード付けについてすごく褒めたけど、『えっ、僕はあんな発想なんかなかったな』とか、そう言う新たな勉強を一杯させてもらっています。ですから、相当落ち込んでいてもここへ来ると僕自身ものすごく勉強になったり、勇気付けたりするのでとても毎年楽しみです。

僕の中では、これで教えるのは大体いいかなと思っていたんだけど、毎年新しい人が来てまたやりたいという話になると、一層こちらも意欲が湧いてきます。

伴奏っていうのはソロと違って一緒に人を巻き込んで音楽をつくっていくとても素敵な仕事なので、良い伴奏者になってそういう世界を広げてもらいたいと思います。(池田健講師)

